令和3年第3回

幸手市教育委員会定例会会議録

招 集 期 日	令和3年3月23日（火）午前9時30分					
開 会 場 所	吉田小学校 1階 会議室					
開会の日時・宣告者	令和3年3月23日（火）午前9時30分				山西 実	
閉会の日時・宣告者	令和3年3月23日（火）午後12時01分				山西 実	
出席 状 況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	教 育 長	山 西 実	出 席	教 育 委 員	岩 崎 万 紀 子	出 席
	職 務 代 理 者	会 田 研 司	出 席	教 育 委 員	高 島 勝 也	出 席
	教 育 委 員	尾 島 紗 緒 里	出 席	教 育 委 員	藤 沼 寛 次	出 席
傍聴人：0人			書 記：大竹 孝典・河口 奈緒			
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	手 島 秀 明				
	総 務 課 長	服 部 道 春				
	指 導 課 長	堀 越 成 夫				
	社会教育課長	百 瀬 修				
	吉田小学校長	二階堂 朝光				

会議事件名	顛末
<p>開 会 午前9時30分</p> <p>日程第1 前回会議録の承認</p> <p>日程第2 協議事項 G I G Aスクール対応 教育用端末の運用及び トイレ改修後の状況に ついて</p> <p>日程第3 議 事</p> <p>議案第9号 幸手市教育行政重点施 策について</p>	<p>教育長 開会を宣する。</p> <p>教育長 令和3年第2回教育委員会定例会及び令和3年第1回 教育委員会臨時会の会議録の内容について質問を求め る。 《質疑》 質疑なし。 《承認》 全員異議なく承認。</p> <p>吉田小学校長 G I G Aスクール対応教育用端末の運用及びトイレ改 修後の状況について、概要を説明する。 《校内視察》 校舎1階トイレ及びG I G Aスクール対応教育用端末 を活用した1年1組の授業を視察する。</p> <p>教育長 専決報告第5号は人事案件のため、公開することが望ま しくないことから「地方教育行政の組織及び運営に関す る法律」第14条第7項により、非公開審議とすることに ついて諮る。 教育長及び出席委員 全員異議なし。 教育長 非公開を決定する。</p> <p>総務課長 資料により説明する。 《質疑》</p>

藤沼委員

学校教育分野と社会教育分野における各事業のうち、緊急度、又は優先度が高い事業はどれか。

また、二つの分野がジョイントする部分について伺う。

教育部長

はじめに、各分野における優先度の高い事業についてお答えする。

まず、学校教育分野については、市長が公約に掲げる「県内トップレベルまでの学力の引き上げ」に関連して、「県内トップレベルまでの学力の引き上げ」に関連して、児童・生徒の学力向上とグローバルに活躍できる人材を育成するための「GIGAスクール環境の活用」が、優先度が高い事業である。また、令和3年度から新たに2教科を追加して実施する「幸手市統一学力調査の拡充」、令和3年度から実施する「教職員ストレスチェックの実施」も優先度が高い事業である。

次に、社会教育分野については、令和3年度に開催が延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連事業として、本市はベナン共和国のホストタウンであることから、市民や児童・生徒の記憶に残るような大会となるよう、市として盛り上げていきたいと考えている。

続いて、二つの分野がジョイントする部分だが、本資料にお示ししたとおり、学校教育分野と社会教育分野の間に入れた「子どもがいきいきと育ち、市民が学び、活躍できるまち」という政策に係わる施策や事業がジョイントする部分だと考えている。

藤沼委員

令和3年度の一般会計当初予算の総額が約154億円で、そのうちの約10%が教育費に充てられるとのことなので、引き続き子どもたちに還元される施策や事業を執行していただきたい。

高島委員

令和3年度から中学校の幸手市統一学力調査が、3教科から5教科に拡充することだが、順位や点数に重点を置くのではなく、子どもたちが出来なかった部分を教員が把握して指導方法の改善につなげるよう進めていただきたい。

また、本日の資料にある令和2年度幸手市立小・中学校

評価結果を見ると、「毎日時間を決めて家庭学習をしていますか」との設問に対し、小学生は8割が肯定的な回答をしているが、中学生は6割しかいなかった。市全体の学力を更に向上させるためには、家庭学習の充実を図ることも重要な要素の一つである。ただし、社会経済指標が低い家庭は、家庭学習に取り組めない傾向にあるので、学校は家庭環境も視野に入れながら指導していただきたい。

指導課長

幸手市統一学力調査を始めて今年で3年目になるが、全国や県の学力学習状況調査を含めてこれまでも、順位や点数のみの結果にとらわれるのではなく、結果を分析して課題を十分に把握し、学校と教育委員会で改善するための様々な取組を実施してきた。今後についても課題の把握に努めるとともに、教員の指導方法の改善に生かして、子どもたちの指導に取り組んでまいりたい。

また、家庭学習については、高島委員がご指摘のとおり、特に中学生の取組時間が課題である。各学校では、この結果を踏まえて家庭学習の取組方法等についても検討しているので、引き続き各学校を支援していきたい。

教育長

各学校には、結果をもって学校の優劣を競うのではなく、課題を分析・把握し、指導に生かすよう伝えている。本来の目的を見失うことがないように引き続き取り組んでまいりたい。

岩崎委員

4点要望したい。

1点目は、令和3年度から実施する教職員のストレスチェックについて、一部の企業では、ストレスチェックの結果が人事評価に反映されてしまうので、回答しない人がいるような話を聞いたことがある。教職員の評価に反映するのではなく、素直な状況を把握できるような調査にしていきたい。

2点目は、本市の学校給食は、学校給食調理コンクールで受賞するほど美味しい給食なので、市の施設内に給食カフェのようなものを設置して、市民が味わえる場所を設けられたら良いと以前から思っていた。

3点目は、図書館の書籍類について、今年度はオリンピック・パラリンピックが開催され、多様な方々が利用され

と思うので、俳優が朗読する耳で聞く小説CDなど幅広い書籍類を整備していただき、更に利用率が高い図書館となるよう取り組んでいただきたい。

4点目は、2月1日に市の無形民俗文化財に指定された上戸の蛇打ち・蛇引きだが、地域に特化したものなので、多くの市民は見たことがないと思う。上戸の蛇打ち・蛇引きは、疫病や災厄が侵入するのを防止する除災の目的で行う行事とのことなので、新型コロナウイルスを払拭するとともに、多くの市民に文化財を周知するためにも例えば幸手駅の東西自由通路に展示するなどの取組をしてはどうか。

総務課長

1点目の教職員のストレスチェックは、毎年予算要求しており、令和3年度に初めて予算化された事業である。市の職員は既に実施しているが、評価につながるものではなく、自己の状態を把握し、必要に応じて産業医の指導を受けられるものであり、ストレスを与えるようなものにはならないと考えている。

2点目の学校給食のご提案だが、非常に面白い企画だと思う。しかし、学校給食は衛生管理のハードルが非常に高く、学校の給食調理室で調理した給食を学校外で提供することは、非常に難しい状況である。取組としては面白いので、担当にご提案の内容は伝えたい。

教育長

P T Aは、学校で給食を試食する機会はあるのか。

尾島委員

学校によるが、さかえ小学校では毎年、小学校1年生の学年行事として給食試食会が企画され、保護者が給食を食べる機会が設けられていた。

教育長

学校給食は、学校給食法により施設の設備に要する経費や学校給食の運営に要する経費を学校の設置者が負担することと定めるとともに、保護者の負担はこれ以外の経費とすることを定めている。そのため、保護者は実質、食材費のみの費用負担であることから、幸手市では今年度、1食あたりの単価が小学校では257円、中学校では299円と安価な価格で提供できるものである。

なお、食材によっては、国の補助を受けているため安価

に提供できているものもあるため、学校以外の場所で提供する場合、補助の対象から外れる可能性がある。

学校給食調理コンクールには毎年参加しており、学校栄養士や調理員の方々のご尽力により幸手市はここ数年、連続で表彰を受けている。なお、受賞した献立は、一般の方も食べられる埼玉県庁の地下食堂で販売されたこともある。

社会教育課長

3点目の書籍類の充実について、パラリンピックの聖火リレーは幸手市からスタートすることから、多様な方々が親しめる図書館となるよう引き続き整備を進めてまいりたい。

4点目の上戸の蛇打ち・蛇引きの展示について、展示物は郷土資料館のほか、他の施設でも展示を行っているが、幸手駅の東西自由通路に展示したことはないので、展示ができるか確認して検討したい。

岩崎委員

「幸手の教育」の冊子には、中学校卒業者の進路状況が掲載されているが、近年、全国的に私立へ進学する率が高くなってきていると思うので、小学校卒業者についても進路状況を掲載し、統計として残してはどうか。

教育長

私立中学校への進学は、親の判断や子どもの希望で選択していることなので、進路状況を公の冊子に載せてもよいのか検討する必要がある。ただし、教育委員が幸手市の現状を把握したいとの思いもあるかと思うので、統計が取れば委員の皆様にはお示ししたい。

岩崎委員がおっしゃるとおり、私立への進学率は、中学校だけでなく高等学校も高い傾向にある。また、例えば私立中学校に進学した生徒が適応できず、2・3年生で公立学校に編入するような事案もある。

岩崎委員

幸手市は桜の街なので、伐採した桜の木を学校などに提供して子どもたちが箸置きを作ったり、スモーク用のチップに加工したりして、ふるさと納税の返礼品として出してみてもどうか。

教育長

伐採した木の活用については以前、話題になったこと

<p>議案第 10 号 幸手市スポーツ推進委員の委嘱について</p>	<p>があり、関係各課に確認したが、衛生面や安全面から安直に教育活動に導入することは困難であるとのことで、実現にはいたらなかった。</p> <p>ただし、郷土愛を醸成することは大事なことなので、関係部署と連携しながら活用できるようであれば子どもたちの教育に生かしてまいりたい。</p> <p>《採決》 全員異議なく原案どおり議決。</p> <p>社会教育課長 議案書により説明する。</p> <p>《質疑》 藤沼委員 30 人以内の定数に対して 21 人の委嘱だが、前回は何人の委嘱だったのか。</p> <p>社会教育課長 前回も 21 人である。委員の委嘱に当たっては、各スポーツ団体から推薦者を選出していただいているが、現在は 30 人推薦いただくことが難しい状況である。</p> <p>《採決》 全員異議なく原案どおり議決。</p>
<p>専決報告第 3 号 専決報告第 4 号 幸手市教育委員会教育長の専決処理に対する報告について</p>	<p>総務課長 専決報告第 3 号及び第 4 号は関係議事のため、議案書により一括して説明する。</p> <p>《質疑》 質疑無し。</p>
<p>専決報告第 5 号 幸手市教育委員会教育長の専決処理に対する報告について</p>	<p>教育長 非公開とする旨、宣する。</p> <p>総務課長 議案書により説明する。</p> <p>《非公開専決報告の質疑》 質疑なし。</p> <p>教育長 非公開を解除とする旨、宣する。</p>

について資料により説明する。

《質疑》

藤沼委員

2月17日に市町村教育委員会オンライン協議会の「いじめ・不登校支援について」の分科会にオンラインで参加し、全国の約100人近くの参加者と協議を行ったが、この問題は全国的な非常に大きな問題であると改めて認識したところである。そこで、2点質問と1点提案したい。

1点目は、1月の定例会で、いじめの調査事案の進捗報告があったが、その後の進捗について伺う。

2点目は、不登校事案が小・中学校合せて20件近くあるようだが、学校別の状況を伺う。また、潜在化している問題はあるのか伺う。

3点目は提案だが、可能であればいじめ・不登校の件数や各事案の対応状況、緊急度などを報告いただき、教育委員会の会議のなかで議論したいと思うが、いかがか。

指導課長

1点目の進捗状況だが、学校関係者と事案に係わった生徒への聞き取りが完了し、現在は、申し立てをしている保護者と生徒から最後の聞き取りを実施する段階である。なお、この問題は、第三者による調査委員会に調査を委ねており、最終的には報告書にまとめる予定である。

2点目の不登校事案の状況だが、小学校は非常に少ないが、中学校になると多くなる現状がある。

なお、不登校の解消に向けて相談室や保健室への登校を促したり、難しいようであれば家庭訪問や電話連絡等を行ったりしているところである。また、心すこやか支援室では、登校復帰に向けて支援室で勉強をし、生活リズムを取り戻すため2人の子どもが通級しているところである。

教育長

3点目のいじめ・不登校の件数の報告については、現在の教育委員体制になってから、協議事項でいじめ・不登校について協議したことがないので、ご要望があれば5月か6月の協議事項で、いじめ・不登校の定義や現状について議題とし、皆様に共通の認識を持っていただくことも大事かと思う。

藤沼委員

本日視察させていただいたG I G Aスクール対応教育用端末を活用した授業に感動した。しかし、I Tを活用することでペーパーレス化が進むと、記憶に残りづらくなる可能性があるので、その辺を考慮に入れた活用をお願いしたい。

指導課長

令和3年度幸手市教育行政重点施策の基本目標に「対面化された授業と個別最適化された学び」という言葉を掲載したが、教員が黒板を使って指導し、子どもたちが板書するこれまでの授業と、G I G Aスクール対応教育用端末を活用した個別最適化された学びを充実させる授業の両方を上手く取り入れて、展開していくことになる。藤沼委員のご指摘の点も考慮に入れながら活用してまいりたい。

尾島委員

幸手市立小・中学校評価結果について、前年度と比較してコロナ禍による変化はあったか。

指導課長

コロナ禍を意識した比較はしていないため、不明である。学校評価は前年度との比較を目的としたものではなく、次年度の教育活動に生かす目的で実施しているものだが、今後、検討していきたい。

会田職務代理者

昨年も指摘したが、学校評価の「分かる授業に努めているか」という設問に対して、教員が「どちらかといえばそう思う」という回答ではなく、全ての教員が「そう思う」と回答できるようにしてほしい。

また、教育相談の設問で、「あなたは、子どもからの相談にのってあげていますか」という設問に対して、「そう思う」と回答した中学校の教員が、小学校に比べて非常に低いと思う。

各学校の校長や教員はこの結果を真摯に受け止めて、危機感を強く持つべきだと思う。コロナ禍で部活動や様々な行事が中止になり、教員と子どもたちの信頼関係の構築が不十分だった面もあるかと思うが、是非、指摘した点については改善に努めていただきたい。

指導課長

昨年もご指摘をいただき、校長会でお話したところだ

<p>日程第 5 その他 1 次回定例会の 日程</p> <p>2 次回の協議事項</p> <p>閉 会 午前 12 時 01 分</p>	<p>が、結果として改善されなかった点について、真摯に受け止めたい。次回は改善されるよう再度、校長会等で話をし、徹底していきたい。</p> <p>各委員の意見を調整した結果、4月の定例会については、次のとおり決定する。</p> <p>第4回教育委員会定例会 日時 令和3年4月19日（月） 午前9時30分 場所 市役所第二庁舎 2階 第1会議室A</p> <p>総務課長 協議の結果、次回は割愛とする。</p> <p>教育長 閉会を宣す。</p>
--	---

ほか特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年 4月19日</p> <p>教 育 長 山 西 実</p> <p>署名</p> <p>署 名 委 員 藤 沼 寛 次</p>